

## 保育者養成校における主体的・対話的な学びにつながる指導案作成の 指導過程の検討

三上 佳子\*

滋賀短期大学 幼児教育保育学科

### Examining the Guidance Process for Creating Teaching Plans that Lead to Proactive and Interactive Learning at Nursery School

Yoshiko MIKAMI\*

Department of Early Childhood Care and Education , Shiga Junior College

抄録：今回の幼稚園教育要領<sup>1)</sup> 小学校学習指導要領<sup>2)</sup> 等の改訂では、新しい時代に求められる資質・能力を育むために、課題の発見と解決に向けた主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が示された。保育・教育実習においても、実践力を育む主体的・対話的な学び等をしていくこと求められている。しかし、学生は指導案作成への負担感によって、子ども達の成長など保育の手応えを実感するには至らず、主体的・対話的な学びにもつながっていないのが現状である。また今まで、田中・山本(2018)が示した指導案の書き方やポイント<sup>3)</sup> はあるものの、学生と教員がともに指導案を作成している指導過程の検討は少ない。ここでは指導案の記述の変化やアンケートから、どのような指導方法が主体的・対話的な学びにつながるかを明らかにしていく。その結果、指導案作成への意欲を高めるには、教員と学生が互いの指導案を見せ合い、考えを出し合うことで、自身の指導案の振り返りや自信にもつながり、主体的な学びの一助になることが見えてきた。

キーワード：主体的・対話的な学び、学んでほしい3つの姿、指導過程の検討

### 1. はじめに

今年度より園現場を退職し、本学の教育・保育実習を担当することになった。2回生が1回生時に行った「保育実習Ⅰ」の振り返りでは、わからなかったことや困ったこととして「指導案の立案の仕方」「実習簿の記述について」「園の先生への声かけのタイミング」が上位に挙がっていた。室井・桐川(2018)は、指導案作成に学生が難しいと感じる理由には、書くことが苦手、子どもの姿や発達をイメージしにくい、書き方がわからないなど様々な理由があると述べている<sup>4)</sup>。また大滝

---

\* E-mail: y-mikami@sumire.ac.jp

(2008)は、指導案をどの程度詳細に書くかは園により基準が異なる。しかし、学生自身が実践で適切に動けるようにするためには、子ども理解を前提として、環境構成・手順・話す内容などを十分準備しておくことが望ましいと述べている<sup>5)</sup>。ト田，高根，竹島(2016)も、部分指導案を作り、実践をシュミレーションする意義を述べている<sup>6)</sup>。本稿では学生が実習で子どもや保育者との関わりの中で、保育の困難さや手応えを感じながらも保育者としての一歩を踏み出せるよう、指導案作成の指導過程を検討する。

## 2. 指導案作成における【学んでほしい3つの姿】と指導過程

### 2.1 指導案作成時に【学んでほしい3つの姿】と具体的な指導について

本学の2回生は、保育実習指導Ⅱ・教育実習(前期・後期)を各15回受講する。その中で、直接指導案作成に関する授業は概ね6~7回となり、ねらいは『学生同士や学生と教員が対話し、指導案をともに創る中で、子ども理解や保育の基本について学ぶ』を挙げている。指導案作成の授業で子ども理解や保育の基本を学ぶために、指導過程をより具体的にする必要があるので、そこで、指導案作成時に【学んでほしい3つの姿】を視点に指導過程を検討する。まず、学んでほしい3つの姿は、1点目「子どもの様子や活動を具体的にイメージして記述する」、2点目「学生同士や教員との対話を通して、いろいろな考えに触れ、環境構成や援助を記述する」、3点目「考えを出し合った指導案を基に模擬保育し、保育者の具体的な言動を記述する」である。そして、3つの姿を促す具体的な指導の流れを挙げてみた。(表1)

学んでほしい3つの姿	指導の流れ
1子どもの様子や活動を具体的にイメージして記述する	①教員が、子どもの年齢やクラスの数や子どもの様子等(表2)を伝え、子どもの様子をイメージしながら、指導案が作成できるようにする。
	②教室で教材や必要な表示例を提示し、環境が具体的に理解できるようにする。また教員が保育者モデルとなって保育し、学生と対話することで活動がより具体的にイメージできるようにする。
	③指導案の記述は、予想される具体的な子どもの姿や援助に集中できるよう、イメージできる準備物等や環境構成や子どもの主な活動等は、あらかじめ、記述しておく。
	④各自が指導案(表3)に記述する。

	↓					
学んでほしい3つの姿	指導の流れ					
2 学生同士や教員との対話を通して、いろいろな考えに触れ、環境構成や援助を記述する	①4.5名で、互いの指導案を見せ合い・話し合いながら、自分の指導案に加筆していく。(環境・子どもの予想される姿。援助等)					
	②全体の中で、指導案に加筆した記述を紹介しともに考えていく。必要と感じたところは、指導案に加筆していく。					
	↓					
学んでほしい3つの姿	指導の流れ					
3 考えを出し合った指導案を基に模擬保育をし、子どもや保育者の具体的な言動を記述する	①教員は、指導案を添削し、コメント(いいね等)の表示や訂正をし、個別に返却。また、いいねコメントをまとめた〇組指導案(表4)を次の授業で提示する。					
	②学生と教員で作った〇組指導案(表4)を基に、4.5人のグループで子どもや保育者の具体的な言動を考え、シミュレーションする。					
	③前日の子どもの様子(トラブル・園にいきたくない子など)も踏まえ、模擬保育をする。→本日の振り返りを記述する。					

## 2.2 指導案作成時に【学んでほしい3つの姿】と具体的な指導事例

### (1) 子どもの様子や活動を具体的にイメージして記述する

クラスの子どもの姿や前日の子どもの姿の例(表2)を伝え、学生が子どもの様子をイメージしながら、指導案を作成できるようにする。(表1 1-①)

教材や必要な表示例を提示し、教員が保育者モデルとなって保育し、学生と対話することで活動がより具体的にイメージできるようにする。(表1 1-②)

教員が指導案のモデル(表3)を示し、学生は指導案に記述していく。(表1 1-③ 1-④)

### (2) 学生同士や教員との対話を通して、いろいろな考えに触れ、環境構成や援助を記述する

4~5名で互いの指導案を見せ合い、話し合いながら自分の指導案に加筆していく。(環境・子どもの予想される姿。援助等)(表1 2-①)全体の中で、4~5名で話し合った指導案を紹介し、ともに考えていく。必要と感じたところは指導案に加筆していく。(表1 2-②)

### (3) 考えを出し合った指導案を基に模擬保育をし、子どもや保育者の具体的な言動を記述する

教員は、個々の指導案を添削し、コメント(いいね等)の表示や訂正をし、個別に返却。また

保育者養成校における主体的・対話的な学びにつながる指導案作成の指導過程の検討

いいねコメントをまとめた〇組指導案(表4)を次の授業で提示する。(表1 3-①)

学生と教員で作った〇組指導案(表4)を基に、4~5人のグループで子どもや保育者の具体的な言動を考え、シュミレーションする。(表1 3-②)

前日の子どもの様子(トラブル・園にいきたくない子など)も踏まえ、模擬保育をする。→本日の振り返りを記述する。(表1 3-③)

(表2) クラスの子どもの姿や前日の子どもの姿を想定(3歳児)

・素直で、自分から思いをすすんで言う子が多い。体を動かすことが好きだが、落ち着いて話を聞いたり、みんなで一緒に行動するのが、苦手な子もいる。AちゃんとBちゃんが、まとまった活動の時に、トラブルになり、解決はしたものの、悲しい気持ちは乗りこえられていない。Cちゃんが一週間、風邪で休んで、園に行くのを嫌がっている。

(表3) 教員が用意した指導案 (3歳児「引越しフルーツバスケット」)

**活動**・イチゴ(赤)、バナナ(黄色)、ブドウ(青)と言ったら、それぞれの場所に引越す。「フルーツバスケット」  
 と言えばその場で座るなど、「フルーツバスケット」を3歳児の発達に合わせた簡単なゲーム遊び

(表3) 保 育 指 導 案

2019年8月27日(火) 10:15~10:45		ぞう組 3歳児 20名	2年次生 氏名 滋賀 短子	
ね ら い	・先生や友達と一緒に引越しフルーツバスケットを楽しむ	主 な 内 容	・( )なゲームで友達と一緒に( )を動かす。 ・先生の話を聞いて、( )から動くことを喜ぶ。	場 所 遊戯室 もしくは 保育室
時刻	環境構成・準備物	予想される子どもの活動	実習生の配慮・援助	
10:15	<p>&lt;準備物&gt; ビニールテープ(赤・青・黄)もしくはマット等</p> <p>・座まって顔ができる空間を作っておく ・子ども達が十分体を動かせるように、線を( )しておく。 ・子ども達が一緒に入れる広さの線をビニールテープ(赤・黄・青色)やマットを用意する。 ・座るときに危なくないように、イチゴ、ブドウ、バナナの位置を覚えておく ・イチゴ・バナナ・ブドウの子ども達がイージーしやすいように、姿勢を貼っておく。 ・赤はイチゴ、黄はバナナが青はブドウがわかるように( )を作っておく。</p>	<p>・始まる前に、排泄(手洗い)をする。 ○引越しフルーツバスケットをする ○保育者のそばに集まり( )の手遊びをする。 ○「引越しフルーツバスケット」の簡単な( )について話を聞く。 *「イチゴ」と言ったら赤(○色マット)に引越し、「バナナ」と言ったら、黄色(○色マット)に引越し、「ブドウ」と言ったら、青色(○色マット)に引越し、「フルーツバスケット」と言われたら、その線に座る  ○引越しフルーツバスケットをする。 ・保育者の声で、イチゴ・バナナ・ブドウのところに引越し、体を動かす。 ・保育者の声で友だちと一緒に動く。</p>		
10:25		○集まって( )の手遊びや話を する。		
反省				

(表4) 保育指導案

2019年8月27日(火) 10:15~10:45		ぞう組 3歳児 20名		2年次生	
				氏名	滋賀 短子
ね ら い	・先生や友達と一緒に引越し、フルーツバスケットを楽しむ	主 な 内 容	・(簡単)なゲームで友達と一緒に(体)を動かす。 ・先生の話聞いて、(自分)から動くことを喜ぶ。	場 所	遊戯室 もしくは 保育室
時刻	環境構成・準備物	予想される子どもの活動		実習生の配慮・援助	
10:15	<p>&lt;準備物&gt; ビニールテープ(赤・青・黄)もしくはマット等</p> 	<p>・始める前に、排泄(手洗い)をする。</p> <p>◎引越しフルーツバスケットをする</p> <p>○保育者のそばに集まり( )の手遊びをする。</p> <p>○「引越しフルーツバスケット」の簡単な(ルール)について話を聞く。</p> <p>*「イチゴ」と言ったら赤(○色マット)に引越し、「バナナ」と言ったら、黄色(○色マット)に引越し、「ブドウ」と言ったら、青色[○マット]に引越し、「フルーツバスケット」と言われたら、その場に座る。</p> <p>・ゲームの中で、友達とぶつかると怪我をしたりする事を聞く。</p> <p>○引越しフルーツバスケットをする。</p> <p>・保育者の声で、イチゴ・バナナ・ブドウのところに引越し、体を動かす。</p> <p>・A児とB児が、フルーツバスケットと一緒に引越しすることを喜ぶ。[a]</p> <p>・C児は、保育者と一緒に引越しをしたり、座ったりする。[a]</p> <p>・フルーツバスケットで座るとき、いろいろなイメージで座る(カチカチになるなど)[a]</p> <p>○保育者のそばに集まってイチゴアイスの手遊びや話をする。</p>		<p>・途中で排泄に行かなくていい様に、声かけをする</p> <p>・全員がいるか、後ろの子も見えるか声をかけ、確認をする。</p> <p>・みんなが見える位置で、ひざ立ち(園児椅子)で手遊びをする。また子ども達が「やりたい」という気持ちになるよう、<u>笑顔で明るく話す。[d]</u></p> <p>・「赤・黄色・青(紫)」の食べ物の当てっこをして、ゲームに興味を持てるようにする。</p> <p>・イチゴ、バナナ、ブドウのかけ声によって、引越しする、「フルーツバスケット」と言ったら、その場で座るというルールがわかるように、表示を使ったり、保育者が実際にしてみる。</p> <p>・<u>「友達とゴツンコしないように、引越し出来るかな?」安全に楽しめるように言葉かけする。[c]</u></p> <p>・ペープサート・指さして「イチゴ」等言う。わかったり不安な子がいたら、<u>保育者も一緒に動く。[b]</u></p> <p>・泣き出したり、途中でトイレに行きたがる子がいたら、<u>園の先生に相談し、安心して続けられるようにする。帰ってきたら「おかえり」と声をかける。[b]</u></p> <p>・「やりたくない」という子がいたら、無理にしようとするのではなく、<u>園の先生と相談し、みれるようにする。また保育者が十分楽しみ、「Oちゃん次、何のくだものにする?」など、声をかけたりする。[b]</u></p> <p>・怪我をしたり、トラブルになった時は、先生と連携し、<u>O室に連れて行ったり、話を聞いたりする。[c]</u></p> <p>・子どもたちの発想やつぶやきをとりあげ、<u>座る動作が楽しめるように、「フルーツ大好きさんが来ないように、座ろう!」「フルーツバスケットといったら、Oちゃんみたいにガチガチフルーツになって座るよ」など声かけをする。[e]</u></p> <p>・遊びの中で、「Oちゃん座るの早かったね」など、<u>認めていく。[e]</u></p> <p>・子ども達が、引越しフルーツバスケットとが楽しく終われるように、イチゴアイスの手遊びや話をして終わる。</p>	
10:20	<p>・集まって話ができる空間を作っておく</p> <p>・子ども達が十分体を動かせるように、場を(広く)しておく。</p> <p>・子ども達が一緒に入れる広さの線をビニールテープ(赤・黄・青色)やマットを用意する。</p> <p>・走るときに危なくないように、<u>イチゴ、ブドウ、バナナの位置を</u>考える。</p> <p>・イチゴ・バナナ・ブドウの子ども達がイメージしやすいように、<u>表示を貼っておく。</u></p> <p>・赤はイチゴ、黄はバナナが青はブドウが子どもたちにわかるように(ペープサートや表示)を作っておく。</p>				
10:40					

### 3. 指導案作成時からの記述の変化【学んでほしい3つの姿より】

#### 3.1 子どもの様子や活動を具体的にイメージした記述の変化

クラスの様子や前日の出来事を共有したことで、子どもの姿の中で個にも焦点をあてた具体的な記述を書く学生が増えた。(表4 a)

例・A児とB児が、フルーツバスケットで一緒に引越しすることを喜ぶ。C児は、保育者と一緒に引越しをしたり、座ったりする。フルーツバスケットで座るとき、いろいろなイメージで座る。(カチカチになるなど)

#### 3.2 学生同士や教員との対話から、いろいろな考えに触れることによる環境構成や援助の記述の変化

(1) 子どもの気持ちを意識した関わり(表4 b)

例・不安な子がいたら、保育者も一緒に動く。

例・泣き出したり、途中でトイレに行きたがる子がいたら、園の先生に相談し、安心して続けられるようにする。帰ってきたら「おかえり」と声をかける。

例・「やりたくない」という子がいたら、無理にしようとするのではなく、園の先生と相談しみれるようにする。また保育者が十分楽しみ、「〇ちゃん次、何のくだものにする?」など、声をかけたりする。

(2) 安心・安全を配慮した言葉がけ(表4 c)

例・友達とゴツンコしないように引越し出来るかな?」安全に楽しめるように言葉をかける。

例・怪我をしたり、トラブルになった時は、先生と連携し、〇室に連れて行ったり、話を聞いたりする。

(3) 保育者自身の態度や姿勢(表4 d)

例・笑顔で明るく話す。

(4) 子どものイメージや発想への認め(表4 e)

例・子ども達の発想やつぶやきをとりあげ、座る動作が楽しめるように「フルーツ大好きさんが来ないように、座ろう」「フルーツバスケットといたら、〇ちゃんみたいにガチガチフルーツになって座るよ」など声かけをする。

例・遊びの中で「〇ちゃん座るの早かったね」など、認めていく。

### 3.3 考えを出し合った指導案を基に模擬保育した後の、言葉がけ等の記述の変化

考えを出し合った指導案を活用し、子どもや保育者のやりとりを想定し言動を考えるようにした。子どもと関わる機会の少ない学生が多い中、3歳児との会話を想定するのは課題も多く、指導案作成の記述と具体的な言動につながる模擬保育等の時間の確保が必要であった。

## 4. 前期実習指導の指導案作成の評価(調査)

前期の実習直前指導時、履修者を対象に「指導案作成時に学んでほしい3つ姿」を視点としたアンケート調査を実施した。(表5)評価を基に、学生と教員がともに創る指導案指導方法について検証する。

### 4.1 調査の対象と時期

#### (1) 対象

短期大学 2年次開講の「教育実習(保育実習)」履修者 120名

#### (2) 時期

2019年6月 教育実習直前指導最後の授業で実施

### 4.2 調査の目的と調査方法

#### (1) 目的

指導案がより具体的になるように、指導方法を検討した。学生にアンケート調査を実施し、指導方法の検証と今後の効果的な指導について考察する。

#### (2) 調査方法

指導案作成指導後の、教育実習直前指導時に、アンケート調査(無記名)(表5)を実施した。「学んでほしい3つの姿」を視点に、指導案作成の指導方法を評価していく。回答は「そう思う」4点「やや思う」3点、「あまり思わない」2点、「思わない」1点とし、結果はグラフ化する。(表6)





### (3) 考察

前期直前指導後のアンケートでは、クラスの様子や子どもの様子や活動をイメージして指導案を記述することの必要性や、子どもの予想される活動を具体的に記述することが、子ども理解や援助につながることに気付く学生が多かった。また学生同士や教員と互いの指導案を見せ合い、話し合う中で、いろいろな考え方を知ることが環境構成や援助が具体的になるとともに、予想される子どもの活動を受けて援助(言葉がけ等)を考えていくことの意義を感じている学生も多く見られた。自身の作成した指導案が、対話によって改善していくことが、指導案の負担軽減にもつながっていった。

ただ模擬保育が具体的な言葉がけにつながることの評価は、保育経験の少ない学生にとって、評価は低かった。今後、1回生から授業との横断的な連携の中で、実践していく必要を感じた。

## 5. 成果と今後に向けて

指導案は、子どもの姿をみて自身で作成していくものである。しかし、保育経験の少ない学生にとって、負担感につながっているのも現状である。今回の研究では、学生同士や教員との対話によって自身の指導案を改善していくことを中心に実践した。同じ負担感を感じている学生同士が、教員を介してともに指導案を作成する過程で、多様な考え方に触れ熟考していくことの意義や、ともに支え合う体制が持てたことは成果であると言える。実習指導後、教員の研究室の一部に、6名程が集えるよう机を置き、指導案を作成したり、教員に相談できる場を設けた。設けてまだ2か月ほどであるが変化したのは、学生の姿である。教員と1対1で考えるだけでなく、その場に集った学生同士が、わからないことを相談したり、教え合ったり、部分実習の情報交換をする姿がみられた。指導案作成の指導過程の検討をしてきたが、改めて学生から主体的・対話的な学びの意味を教えられた。

今後、実習指導の時間には限りがあるため、授業と連携し1回生からの指導過程を検討するとともに、学生が主体的に指導案を作成する場づくりの工夫もしていきたい。授業においても、学生の部分実習のビデオを活用したり、学生が作成した指導案を授業で発表したりし、改善していきたいと考えている。

また、滋賀短期大学附属幼稚園や次年度開設される保育園と連携し、課題としている模擬保育についても、研究をすすめていきたいと考えている。

## 謝辞

本研究は平成30年度滋賀短期大学学長裁量費による支援を受けている。また、本研究遂行において

は、本科前川頼子教授及び久米央也准教授のご教授をはじめ、関係教員や2回生の学生にも協力をいただいている。これらのことを付記し、深く御礼申し上げます。

## 引用・参考文献

- 1) 幼稚園教育要領解説 文部科学省 改訂の基本方針 P3-P4 2018年3月
- 2) 小学校学習指導要領(2018) 文部科学省 総則第3(1) 幼稚園教育要領 P38 2018年3月
- 3) 田中亨胤 山本淳子 実習の記録と指導案 ひかりのくに P11-P16 2018年
- 4) 室井真紀子・桐川敦子 指導案作成時に学生が感じる課題意識  
—映像視聴前後の変化についての検討—帝京短期大学 紀要 No.20:43-50 2018年
- 5) 大瀧まり子 幼稚園実習における指導案作成の留意点 北海道文教大学研究紀要 No.32:49-56 2008年
- 6) 幼稚園教育実習 第4章 卜田晋一郎 高根栄美 竹島澄子 健帛社 P82-P83 2016年

\*この研究は滋賀短期大学研究倫理委員会の審査を受け了承済です。